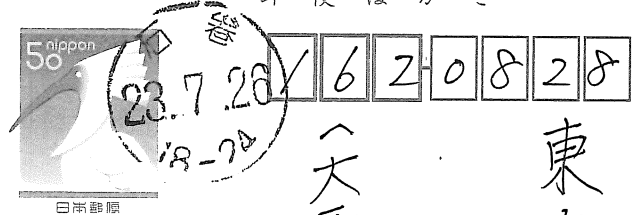


郵便はがき



620828

東京都新宿区袋町六番地
日本出版クラブ内

大震災出版対策本部

御中



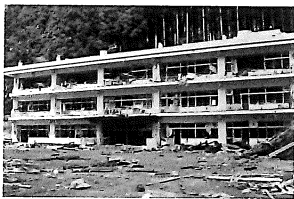
インクジェット紙はがき

未曾有の東日本大震災から早くも四ヶ月が過ぎました。津波は相川小学校の屋上まで襲い、校舎は全く使えない状態になりました。そのため地区内で唯一残った橋浦小学校に同じ被害を受けた吉浜小学校と一緒に学習することになり、心に深い悲しみや辛さを抱えた子供たち、保護者、地域の方々、職員が学校再開に向け努力を重ね、四月二十一日に始業式、入学式を行い二十三年度のスタートを切りました。橋浦小学校へ通う道の安全に不安がある子供たちは、相川地区の避難所で学習するという状態を並行して行ってきました。その子どもたちもやっとなり、九日に実現しました。そのような中、全国の多くの方々から相川小学校の子どもたちのために心温まるメッセージや学用品、日常生活品などの物資をご提供いただきました。何もかも無くしてしまっただけの子供たちは、鉛筆一本、ノート一冊にもありがたみを感じ喜んでおりました。十分ではない環境の中でも再開できた学校生活の中で、その一つ一つを使わせていただき、学習できる喜びを味わっております。家庭には子供たちの遊び回る姿や笑い顔、歓声など、少しずつ子供たちらしい姿が戻りつつあります。六月五日には、三校合同の運動会を開催し、保護者・地域の方々にも元気な姿を見てもらうこともできました。三校の各学年が一つの教室で学ぶことにも慣れ、新しい友達との輪や学習することの楽しさを感じてきました。大きな問題も幸いに起きることなく、七月二十一日に無事、夏休みを迎えることができました。

皆様方ますますのご健勝をお祈りしつつ、相川小学校も復興に向け「笑顔で前向きに」進んでいくことを誓いたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。とりあえずの御礼とさせていただきます。

平成二十三年七月

子供たちの図書カードも贈ってください。あんなにうれしかったです。



津波に襲われた校舎



〈震災前の校舎〉